

# マコトちゃん占い



mikatuki98

「ウソコ・マコト・ウソコ・マコト・ウソコ……」

「ねえ、ウソコちゃん何してるの？」

「あ、マコトちゃん。あのね、マコトちゃん占いしてるの」

「え？ボクの占い？」

「ちがうよ。ウソコとマコトちゃんの占い」

「ふ～ん。ウソコちゃんとボクの占いてどんな占い」

「えっとね、こうやってウソコ・マコト・ウソコ・マコトってね」

「……それ、ハリネズミだよな？ウソコちゃん」

「そうよ。これハリネズミ。ハリネズミのハリをこうやって一本ずつぬいていくの」

「え？ウソコちゃん、ぬいてるの？」

「……ウソコ・マコト・ウソコ・マコト・ウソコ……」

「……ウソコちゃん、こわいよ」

「大丈夫だよ～ 本物のハリネズミじゃないもん」

「……そ、そうなの？ならイイけど……いや、やっぱりヨクナイ、ヨクナイ」

「いいのいいの。だってどっちか知りたいもん」

「え？どっちって何が？」

「ウソコかマコトちゃんか」

「ウソコちゃんかボクか？」

「そう。ハリネズミさんだけが知ってるんだ～」

「だから何を知ってるの？」

「ウソコかマコトちゃんか」

「……」

「ウソコ・マコト・ウソコ・マコト・ウソコ…… あ、もうすぐ終わるよ」

「ねえ、ウソコちゃん！」

「ん？なあ～にマコトちゃん」

「ボクはどっちでもイイと思うんだ」

「どうして？」

「だって、ウソコちゃんはウソコちゃんで、ボクはボクだもん」

「でも……」

「それにハリネズミのハリをぬいてしまったら、ハリネズミじゃなくなるよ」

「うん……でも……」

「かわいそうだよ」

「だって……」

「ウソコちゃんのウソはマコトかもしれないし、ボクのマコトはウソかもしれない」

「ボクたちはそうやってずっと一緒に遊んできたじゃないか」

「う～ん……」

「だから、これからは一緒にハリネズミを大事にしようよ」

「う～ん……」

「ウソコでもない、マコトでもない、そのままのハリネズミと一緒にこれからも遊ぼうよ」

「……一緒に？」

「そう、一緒に」

「うん、分かった」

「よかった」

「じゃあ、もう少しだからぬいてしまうね。ウソコ・マコト・ウソコ……」

「あああああ～ ウソコちゃん、だからハリネズミが……」

遂に丸裸になってしまったハリネズミ。

ところがウソコちゃんは、ぬいたハリを今度は元通りに刺しはじめました。

「マコト・ウソコ・マコト・ウソコ・マコト……」

ちょっとあきれ顔のマコトちゃんでしたが、無邪気に占いを続けるウソコちゃんをいつしか笑顔で見えていました。

ウソコちゃんの終わりのないマコトちゃん占いは一体いつまで続くのでしょうか。 了